

各 位

平成 1 5 年 3 月期第 3 四半期の業績等の概況



所 在 地 東京都港区六本木六丁目 8 番 10 号
 会 社 名 オリコン株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 小池 恒
 (コード番号 4 8 0 0 大証ヘラクレス市場)
 問 い 合 わ せ 先 執行役員経理本部長 峯岸 幸久
 T E L 03-3405-5252 (代表)

1. 当企業集団の連結業績

(1) 平成 15 年 3 月期第 3 四半期 (平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 12 月 31 日) の連結業績

(単位 : 千円、%)

	15 年 3 月期第 3 四半期 (当四半期累計)	前 年 同期比	14 年 3 月期第 3 四半期 (前年同四半期累計)	(参考) 前連結会計年度 (通期)
売 上 高	3,365,155	138.8	2,424,141	3,393,295
売上総利益	1,331,121	127.4	1,045,033	1,525,366
営 業 利 益	379,911	119.2	318,602	512,342
経 常 利 益	354,411	113.4	312,543	500,648

(注) 1 . 当四半期に係る数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。
 2 . 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 部門別の売上高内訳

(単位：千円、%)

	15年3月期第3四半期 (当四半期累計)		前年 同期比	14年3月期第3四半期 (前年同四半期累計)		(参考) 前連結会計年度 (通期)	
	金額	構成比		金額	構成比	金額	構成比
データベース事業	315,771	9.4	94.1	335,470	13.8	484,293	14.3
メディア事業	3,049,383	90.6	146.0	2,088,670	86.2	2,909,002	85.7
合計	3,365,155	100.0	138.8	2,424,141	100.0	3,393,295	100.0

(注) 1. 当四半期に係る数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

2. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(3) 主な資産・負債の変動について

(単位：千円)

項目	15年3月期第3四半期	増減額	前連結会計年度末
(資産)			
1. 現金及び預金	514,860	277,003	237,856
2. 受取手形及び売掛金	1,163,772	85,142	1,078,630
3. 工具、器具及び備品	252,006	72,329	179,676
4. ソフトウェア	319,731	113,379	206,352
5. 投資有価証券	125,834	44,049	169,884
(負債)			
1. 支払手形及び買掛金	562,046	97,239	464,802
2. 短期借入金	1,170,520	967,270	202,730
3. 未払金	163,248	88,575	251,823
4. 未払法人税等	615	159,700	160,315
5. 長期借入金		71,390	71,390

(注) 1. 項目ごとの変動額が総資産額の1.0%を超えるものを記載いたしております。

2. 当四半期に係る数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

3. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

2. 業績の概況（自 平成 14 年 4 月 1 日 至 平成 14 年 12 月 31 日）

（1）連結業績の概況

当第 3 四半期（自 平成 14 年 4 月 1 日 至 平成 14 年 12 月 31 日）における日本経済は、金融機関などの不良債権処理問題の解決が見られず、雇用状況も改善しないまま、民間設備投資、個人消費ともに回復が見られない厳しい状況で推移しました。

当社に関わる主な業界の状況は次のとおりです。

（インターネット対応携帯電話）

- ・総務省総合通信基盤局の調査によれば、平成 14 年 12 月末の日本国内のインターネット対応携帯電話加入者数は約 5,952 万人（前年比 122.7%）と増加が鈍化してまいりましたが、今後はカメラ付機種などの新機種の開発により更に普及するものと思われま

（オーディオレコード）

- ・社団法人日本レコード協会の調査によれば、当第 3 四半期のオーディオレコード（CD、アナログ、カセット）の生産実績は 3,264 億円（前年同期比 89.95%）と「違法デジタルコピー問題」の影響などから減少しておりますが、レコードメーカー毎にコピーコントロール CD の投入などの対策を講じつつあります。

（出版）

- ・社団法人出版科学研究所の調査によれば、平成 14 年の出版物推計販売金額は 2 兆 3,105 億円（前年比 99.4%）と微減しましたが、書籍は前期比 100.4%と 6 年振りのプラスに転じております。

このような状況の中で当社グループでは、全社一丸となって『最高レベルのマーケティング活動と最良のメディア展開』を掲げて、提供コンテンツの有料会員増加、取り扱い雑誌の購読部数・掲載広告の増加に注力してまいりました。

平成 14 年 4 月にグループ全体の企業価値の増大を目的とした会社分割によるセグメント再構築、同年 7 月に株式会社からエンタテインメント業界に強い影響力を持つオーディション専門誌『月刊デ・ビュー』および母親が読む子供向けモデル誌『キッズ デ・ビュー』の営業権を譲り受けグループ全体としてのシナジー効果により多角化し、エンタテインメント事業の拡大を図りました。

平成 14 年 11 月にはデジタルライフライン㈱を設立し、グループ内で蓄積されたコンピュータネットワークの管理、運営業務を活かし、ランニングコストのかかるシステム関係のルーティンワークのアウトソーシング事業を展開させるなど、引き続き事業分野の拡大を図ってまいりました。

以上の結果、当第 3 四半期では、連結売上高は 3,365,155 千円（前年同期比 138.8%）、同売上総利益は 1,331,121 千円（前年同期比 127.4%）、同営業利益は 379,911 千円（前年同期比 119.2%）および同経常利益は 354,411 千円（前年同期比 113.4%）となりました。

（2）平成 15 年 3 月期中第 3 四半期の連結売上高

当連結第 3 四半期累計の事業の種類別セグメント状況は次のとおりであります。

データベース事業

当社の音楽情報テキストデータベースは、既に多くの EC 事業者を採用され業界のデファクトスタンダードとなっておりますが、インディーズ作品・輸入版のデータベース拡充、検索項目の

多様なデータベースのクオリティアップを図ってまいりました。

ヒットチャートデータベースは、オリコン ヒットチャートとしてあまりにも有名ですが、更にインディーズ作品、ビデオ、DVD、ゲームなどのジャンルの情報充実に注力してまいりました。

この結果、データベース事業部門の当連結第3四半期累計の売上高は315,771千円（前年同期比94.1%）、売上高構成比は9.4%となりました。

メディア事業

デジタル分野では、各移動体通信キャリアのモバイルインターネットサービス向けに、総合音楽情報サイト『オリコンスーパーサウンド』、クラブ系総合着信メロディサイト『ORICON CLUBBER』、女性アイドル専門着信メロディサイト『美(少)女メロ』、洋楽総合着信メロディサイト『洋楽着信王』、オーディション&エンタテインメント情報サイト『web De-View(ウェブデ・ビュー)』の5つのコンテンツを提供しております。提供コンテンツの充実に注力したことに加え、各種サービス新設が効を奏し、コンテンツの会員数は堅調に推移しております。

出版分野では、伝統ある音楽業界向け週刊誌『オリコン』のリニューアルおよび一般向けアーティスト週刊誌『weekly oricon WO』の更なる内容充実に注力し、特集記事とタイアップした購読・広告拡販に注力いたしました。

また、『月刊デ・ビュー』は、エンタテインメント業界におけるオリコンブランドの強みを生かして誌面充実に注力し、『キッズ デ・ビュー』におきましては、マーケットが拡大している子供服のファッション誌化路線を強め、購読・広告拡販に注力してまいりました。

この結果、メディア事業の売上高は3,049,383千円（前年同期比146.0%）、売上高構成比は90.6%となりました。

(新規事業について)

当社グループでは、「アーティストの価値創造企業」をコンセプトとしたオリコンブランドを最大限に活用した新規事業を展開します。

違法デジタルコピー問題などから、ユ・ザーのCD購入が減少しておりますが、ユーザーがより多くのCDを購入するようにアーティストのブランド価値を拡大させ、イメージアップを図る様々な施策を実施します。

音楽に興味を持つ1万5千人の当社アンケート会員を活用して、各アーティストに関するブランド価値を高める施策を選出し、それぞれの方法を当社グループが最良の方法で演出します。

たとえば、「小説」、「エッセイ」、「写真集」の出版および「グッズ」販売などの各アーティストのブランド価値を最も高めるコンテンツを創造・演出します。

ブロードバンド時代を迎えて、魅力的なコンテンツを揃えた企業が勝者となりますが、当社グループでは、アーティストの最良のパートナーとして、ブランド価値を拡大させて、収益の最大化に邁進し、ブロードバンド時代の勝者となる所存であります。

第一弾として、本年3月14日のホワイトデーに「氷川きよし」のインタビュー、デビュー当時の写真、撮り下ろし写真、スペシャルQ&A、イラスト、まんがなどを掲載し、「氷川きよし」の魅力をユーザーにアピールする『氷川本 もっと!氷川きよし』を発売し、アーティストのブランド価値を高めることに注力します。

(3) 売上原価および売上総利益

当社グループの売上原価の主なものは労務費およびメディア事業の出版部門における雑誌発行に係る外注制作費などの固定費の他、メディア事業のデジタル部門における支払手数料（コンテンツ制作に係る音源制作費・各携帯端末キャリアの会費回収代行手数料・社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）への著作権使用料）などの変動費であります。

メディア事業の商品構成比率が変動したことから、グループ従業員増加に伴う労務費増加およびコンテンツ有料会員増加に伴う支払手数料が増加し、売上原価は 2,034,033 千円（前年同期比 147.5%）、売上総利益は 1,331,121 千円（前年同期比 127.4%）、売上高総利益率は 39.7%となりました。

(4) 販売費及び一般管理費

当社グループの業容拡大に伴う増員からなる人件費増加に、平成 14 年 9 月の本店移転に伴う増床から家賃増加などが加わり、販売費及び一般管理費は 951,209 千円（前年同期比 130.9%）、売上高販管費比率は 28.3%となりました。

(5) 営業利益、経常利益

売上原価および販売費及び一般管理費は増加したものの、売上高の増加から営業利益は 379,911 千円（前年同期比 119.2%）、売上高営業利益率は 11.3%となりました。

また、積極的な事業資金活用に伴う金融費用増加などから、経常利益は 354,411 千円（前年同期比 113.4%）、売上高経常利益率は 10.5%となりました。

(6) 主な資産・負債の変動について

資 産

現金及び預金が前期末 237,856 千円から第 3 四半期末 514,860 千円へと増加しておりますのは、主として M & A などに備え手元流動性を厚くしていることによるものであります。

受取手形及び売掛金が前期末 1,078,630 千円から第 3 四半期末 1,163,772 千円へと増加しておりますのは、主としてメディア事業の売上増によるものであります。

工具、器具及び備品が前期末 179,676 千円から第 3 四半期末 252,006 千円へと増加しておりますのは、主としてメディア事業のデジタル部門のコンテンツ提供会員増加に伴うサーバー購入などによるものであります。

ソフトウェアが前期末 206,352 百万円から第 3 四半期末 319,731 千円へと増加しておりますのは、主としてメディア事業のデジタル部門のコンテンツ提供会員増加に伴うシステム構築増加によるものであります。

有価証券が前期末 169,884 千円から第 3 四半期末 125,834 千円へと減少しておりますのは、主としてアライアンス・パートナーへ出資した非上場株式の評価減によるものであります。

負 債

支払手形及び買掛金が前期末 464,802 千円から第 3 四半期末 562,046 千円へと増加しておりますのは、主として売上高増加に伴う支払手形及び買掛金増加によるものであります。

短期借入金が前期末 202,730 千円から第 3 四半期末 1,170,000 千円へと増加しておりますのは、主として業容拡大に伴う設備資金・運転資金増加に加え、現金及び預金の増加によるものであります。

未払金が前期末 251,823 千円から第 3 四半期末 163,248 千円へと減少しておりますのは、主としてサーバーなどの買付代金の決済によるものであります。

長期借入金が前期末 71,390 千円から第 3 四半期末未計上となりましたのは、主として借入金利などを勘案し、短期借入からの資金調達としたことによるものであります。

3. 当期の見通しについて

当社は業績予想を開示しておりません。

4. 平成 15 年 3 月期第 3 四半期（平成 14 年 4 月 1 日～平成 14 年 12 月 31 日）の単体の業績

（単位：千円、％）

	15 年 3 月期第 3 四半期 （当四半期）	前 年 同期比	14 年 3 月期第 3 四半期 （前年同四半期）	（参考） 前期（通期）
売 上 高	787,711	59.5	1,324,262	1,911,843
売上総利益	535,472	87.0	615,833	890,141
営 業 利 益	234,149	100.1	233,929	387,949
経 常 利 益	221,355	92.7	238,760	395,131

（注）1．当四半期及び前年同四半期に係る数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。
2．記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

2003/02/24 15:30

弊社は投資家の皆様に対するスピーディな情報公開を目的として、ホームページ上にニュースリリースを掲載しております。
なお、本ニュースリリースには証券取引法第 166 条に定められた重要事実に当たる情報が含まれる可能性があります。重要事実を含むニュースリリースをご覧になられた方が、その重要事実が証券取引法施行令の規定に従い公開された後 12 時間以内に、オリコンの株式の売買等を行った場合、いわゆるインサイダー取引規制違反として、証券取引法の規定に接触するおそれがありますのでご注意ください。